

みんなで力を合わせてがんばった

# 姿に生まれ変わる

震災から3年

元気な姿に生まれ変わった

平成12年10月6日、鳥取県西部地域に発生した鳥取県西部地震で、日野町は震度6強を記録。町内全戸が被災するなど大きな被害を受けました。地震発生から今年で3年が過ぎ、住宅の建て替えなど住宅復興事業や道路・施設などの震災復旧に一区切りついたことから、11月30日、町文化センターで震災復興記念式典を開きました。

式には、町内の自治会長や関係者ら150人が出席。梅林町長が「地震から3年、この間、多くの方々からご支援をいただきました。そして、住民の皆さんと一体となって復興に取り組み、町は元気な姿に生まれ変わりました」とあいさつ。その後、町内の小学生4人が「ありがとう。元気で。日野町」と一人ひとりが「復・興・宣・言」と書いた垂れ幕を披露し、町長とともに鳥取県西部地震からの復興を宣言しました。

「この3年間を振り返り、それぞれの思いを話す記念式典では、地震による被害を記録したビデオの上映や黒坂自主防災委員会、下榎自治会、日野ボランティアネットワークの代表者らが、この3年間を振り返り、震災体験を話しました。

「黒」 坂自主防災委員会の福田和也さんは「自分たちの手で地域を守ろうと、2年前に自主防災組織を立ち上げました。今年の防災訓練では、連絡体制もスムーズに

「下」 榎2区自治会長の小谷三郎さんは「人の輪が復興への原動力になりました。今日は復興宣言は一つの区切り。住宅再建資金の返済がこれから始まる人もいます。こういうことも知ってほしい」と被災者の思いを代表して話しました。



福田和也さん(黒坂)

「日」 野ボランティアネットワークの山下弘彦さんは「震災体験を生かしていけるようこれからも活動していきたい」と高齢者宅訪問活動などの報告をしました。



小谷三郎さん(下榎)

「日」 野ボランティアネットワークの山下弘彦さんは「震災体験を生かしていけるようこれからも活動していきたい」と高齢者宅訪問活動などの報告をしました。



山下弘彦さん(根雨)

「日」 野ボランティアネットワークの山下弘彦さんは「震災体験を生かしていけるようこれからも活動していきたい」と高齢者宅訪問活動などの報告をしました。

地域の魅力を再発見  
特産品即売などで活気

この日は、まちの元気な姿を全国に発信しようと、NHKと共催して同会場を中心にコンサートや特産品即売など



会場は特産品などのテントが並び活気づく

の震災復興イベントを開きました。役場駐車場では、新鮮な野菜や農産物加工品などの即売市、そばを使った商品紹介など特産品のテントが並び、多くの人でにぎわいました。開発センターでは、まちの魅力を見直してもらおうと、町内の特産品やグループの活動を紹介します。鳥取県西部地震の資料展示や石こけしづくり体験、オシドリグッズの紹介がありました。また、町文化センターでは、歌手の伊勢正三さん、太田裕美さんを招き「日野町ハートフルライブ」を開きました。訪れた人たちは、美しい歌声と名曲に酔いしれていました。